

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達らぼ&kids相模原			
○保護者評価実施期間	2025年1月5日 ～ 2025年2月28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	13名
○従業者評価実施期間	2025年1月5日 ～ 2025年1月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一日の預かりのため、トイレや着替え等、身辺自立に向けた支援ができる。	自分でできることを増やすために、チャレンジをする促しをする。難しい時には助けてほしいと意思表示できるようにする。	それぞれの児童にあった方法で声掛け等工夫していく。 職員同士、連携を取ながら行う。
2	小集団の中で、変動的なプログラム、運動遊びを行うことで社会性やコミュニケーション能力を養える。	順番等ルールを定め、メリハリを持って遊びを楽しめるようにしている。	児童が飽きないように意見を出し合いながら、新しい遊びを取り入れていく。
3	送迎を行っているため、送迎時の支援も行える。	送迎時の長時間でもしっかりと座ってられるような声掛け、必要に応じては絵カード等を使用して児童が取り組みやすいようにしている。	現在は問題等なく支援できているため、引き続き継続していく。 新たに改善が必要となった場合には、職員及び保護者の方と相談をしながら改善に向けて取り組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職員が不足している。	言語聴覚士や作業療法士が不足している。	求人サイト等で募集を行っている。 専門的な内容については、同法人内の事情所に助言をもらいながら、改善・実行していく。
2	施設のスペースが狭いため、児童同士の接触の危険性がある。	椅子や机もある分、活動スペースに限りができてしまう。	近隣の公園や幼児室等を活用しながら、活動を行っていく。 児童数の多い日には職員の配置を多くする。 児童にも走ると接触の危険があることを教えられるように工夫して支援を行っていく。
3	地域交流の機会が設けられていない。	他の事業所、施設を利用している児童も多いため、普段とは異なる環境で児童の負担になる可能性があるため。	児童の特性を考慮しつつ、職員の配置等準備を行い、負担にならないように交流できるようにしたい。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025 年 3月 21日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	近隣の公園や幼児室等を利用して活動をしている。	部屋が狭く活動が限られているため活動が限られている。近隣の公園や幼児室等を利用して活動の幅を広げていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		活動の幅を広げるため、職員の配置を多くしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく 構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			床が冷たいので床暖が必要だと思う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		ご意見をいただいた時には、可能な限り改善できるように取り組んでいる。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7		法人内での研修は少ないが、外部での研修が受けやすい体制づくりを心がけている。	法人内での研修が少ない。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		新たな巧技用具を取り入れ、固定化しないよう工夫をしている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		支援後だけではなく、支援中や職員の休憩中にも行っている。	送迎に出る職員もいるため毎日難しいが、職員の連絡ツールで共有できるようにしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		関係機関の見学等を行う等、連携を取ながら支援を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1		小学校との共有は行っていないが保護者との共有を行っている。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	3		他のこどもとの交流はないが、現在のところ今後もする予定はない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3		職員の研修の機会も増やしながら、ペアレントトレーニングできるように努めていく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		半年に1度面談・参観の機会を設けているが、希望があれば都度面談・参観を行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1		保護者会を行っているがきょうだいの交流は行っていない。きょうだい同士での交流は現在のところ考えていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		日々連絡帳やブログの更新を行い、活動内容の発信に努めている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3		地域交流も含め、市内事業所と連携を取ながらイベント等開催の計画を勤めている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		服薬等の確認を行い、必要があれば与薬の記入をお願いしている。	予防接種はしていない。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7			